

適性検査 I

注意

- 1 問題は **1** のみで、5ページにわたって印刷してあります。
- 2 検査時間は四十五分です。
- 3 声を出して読んではいけません。
- 4 答えは全て解答用紙に明確に記入し、解答用紙だけを提出しなさい。
- 5 答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
- 6 受験番号を解答用紙の決められた欄に記入しなさい。

問題は次のページからです。

(*印の付いている言葉には、本文のあとに〔注〕があります。)

文章1

店で商品を購入するとき、金銭との交換が行われる。でも、バレン

タインデーにチヨコレートを贈るときには、その対価が支払われるこ
とはない。好きな人に思い切って、「これ受けとつてください」とチヨ
コレートを渡したとき、「え? いくらだったの?」と財布からお金を
とり出されたりしたら、たいへんな*屈辱になる。

贈り物をもらう側も、その場では対価を払わずに受けとることが求
められる。このチヨコレートを「渡す／受けとる」という行為は贈与
であって、売買のような商品交換ではない。だから「経済」とは考え
られない。

では、ホワイトデーにクッキーのお返しがあるとき、それは「交換」
になるのだろうか。この行為も、ふつうは贈与への「返礼」として、商
品交換から区別される。たとえほとんど等価のものがやりとりされて
いても、それは売買とは違^{ちが}う。そう考えられている。

店の棚にある値札のついたチヨコレートは、それが客への「贈り物」
でも、店内の「装飾品」でもなく、お金を払って購入すべき「商品」
だと、誰も疑^{うたが}わない。でもだからこそ、その商品を購入して、贈り物
として人に渡すときには、その「商品らしさ」をきれいにそぎ落とし
て、「贈り物」に仕立てあげなければならぬ。
なぜ、そんなことが必要になるのか?

ひとつには、ぼくらが「商品／経済」と「贈り物／非経済」をきちんと
区別すべきだという「きまり」にとても忠実だからだ。この区別を
とおして、世界の*リアリティの*一端^{いったん}がかたちづくられているとさ
えいえる。

そして、それはチヨコレートを購入することと、プレゼントとして

たとしたら、これは等価なものを取引する経済的な「交換」となる。と
ころが、そのチヨコレートの代金に相当するクッキーを一ヶ月後に渡
したとしても、それは商品交換ではない。返礼という「贈与」の一部と
みなされる。このとき、やりとりされるモノの「等価性」は*伏せら
れ、「交換」らしさが消える。

商品交換と贈与を分けているものは時間だけではない。お店でチヨ
コレートを購入したあと、そのチヨコレートに値札^{ねふだ}がついていたら、
かならずその値札をはずすだろう。さらに、チヨコレートの箱にリボ
ンをつけたり、それらしい包装をしたりして、「贈り物らしさ」を演出
するにちがいない。

贈り物をもらつて、すぐに相手にクッキーを返し
たとえば、チョコレートをもらつて、すぐに相手にクッキーを返し
指摘^{してき}した。

もいる。

たとえば、バレンタインの日にコンビニの袋に入った板チョコをレシートとともに渡されたとしたら、それがなにを意図しているのか、戸惑つてしまふだろう。でも同じチョコレートがきれいに包装されてリボンがつけられ、メッセージカードなんかが添えられていたら、たとえ中身が同じ商品でも、まったく意味が変わってしまう。ほんの表面的な「印」の違いが、歴然とした*差異を生む。

ぼくらは同じチョコレートが人ととのあいだでやりとりされることが、どこかで区別しがたい行為だと感じている。だから、わざわざ「商品らしさ」や「贈り物らしさ」を演出しているのだ。

ぼくらは人とのモノのやりとりを、そのつど経済的な行為にしたり、経済とは関係のない行為にしたりしている。「経済化＝商品らしくすること」は、「脱経済化＝贈り物にすること」との対比のなかで実現する。こうやって日々、みんなが一緒にになって「経済／非経済」を区別するという「きまり」を維持しているのだ。

(松村圭一郎『うしろめたさの人類学』による。一部改変。)

〔注〕

屈辱

恥ずかしい思いをさせられること。

伏せ（る）

はかくす。

リアリティ

現実らしさ。真実味。

一端

一部分。

差異

ちがい。

二十年ほど前になるだらうか、ある*シンポジウムで、日本の「デザイン界の*重鎮ともいふべき方と同席した。彼は、デザインとは「表面を変える」ことだと、きわめて明快に言い放つた。目の前のマイクをさして、「これをラッカーで黄色に塗るでしよう、するとマイクはまったく別の存在になってしまいます」と。

デザインのこの定義にはうなつた。ファッショントレーニングなんかを考えるともつと分かりやすいかもしれないが、モノの、あるいはひとの、表面を変えることで、それに接するひとの気分が変わり、取り扱いが変わる。つまり、関係がごろっと変わってしまうのである。

現代を代表するデザイナーのひとり、深澤直人さんもまた、デザインとは「サーフェスの変形」だと言つ。サーフェスとはやはり「表面」ということだが、このときにはじぶん以外のものとの接点、もしくはそれにふれたときの感触^{かんしょく}という*ニュアンスがより強い。サーフェスを変えることで、ひとのふるまいが変わる。何かをしたくなる、何かをすぐりにゆく、身体がむずむずする……。

その深澤さんは、ある著作^{ちよさく}のなかでとても大切なことを言つている。建築から番組制作まで、*おぎなりなデザインというのは、どこかひとを軽く*あしらつたところがある。「『こんなものでいい』と思ひながら作られたものは、それを手にする人の存在を否定する」というのである。

そして、深澤さんはこう続ける。人間は「あなたは大切な存在で、生きている価値^{かち}がある」というメッセージをいつも探し求めている生きもの

だ。だから、「これは大事に使わなければならぬ」と思われるもの、あるいは逆に、「手に取った瞬間にモノを通じて自分が大事にされていることが感じられる」もの、それがよいデザインだというのである。

いろいろ思い当たるふしがある。わたしが通つた小学校は、明治のはじめに造られた古い学校である。何度も改築されたのだらうが、わたしたちの教室があつた本館は当時のままである。通つているときには気がかなかつたが、先日四十年ぶりに訪れて、おどろいた。段差の小さい階段は大理石、手すりは彫りをほどこした木製の柔らかい手ざわりのものだつた。子どもたちは無意識に、おとなたちがじぶんたちを大事に思つていることを、校舎をかけずり回りながら、肌で感じていたにちがいない。

歩いていい街だなあと感じるときにも、同じような思いに浸される。掃除^{そうじ}が行きどでいるといふこともあらうが、それも含めて、住民がじぶんたちの住む場所を大切に思つているらしいことが、そこから感じられる街は、どこか*風格がある。

人間についてもきっと、同じことが言えるのだろう。もつどうでもいいと、じぶんの身体を傷つけたり、自暴自棄^{じほうじき}になつたりするのは、じぶんのことを大切に思えないような状態のなかにいるということだ。じぶんを大事に思つ気持ち、これは昔から「自尊心^{じそんしん}」と呼ばれてきたが、「自尊心」もまた、他人に大事にされてきた、ていねいに扱われているという体験を折り重ねるなかで、じぶんはそれほど大切な存在なのだと知らされるところからしか生まれてこない。

たしかにいまの子どもはたつぱりと*玩具^{がんぐ}を与えられる。ぬいぐるみ、

積み木、子ども用のカラオケ、ゲーム機。合成繊維、ビニール、プラスチック、そして電子の声……。ほとんどの玩具が、深澤さん流の言い方をすると、「こんなものでいいでしょ」という感覚で作られている。はたして、ここからはどんな「自尊心」が生まれるのだろうか。

心理学者の霜山徳爾さんがある料理人の言葉として紹介しているのに、こんなのがある。「ものの味わいの判る人は人情も判るのではないか」と思いやす。じぶんのために働いてくれているひとへの思いがないと、味は分からないのである。じぶんのために何かをしてもらつて、じぶんがでいねいに、そして大事に扱われている、そういう体験こそが、いつか「自立」のための、栄養たっぷりの*腐葉土になるのだと思う。

(鷺田清一「デザインの思想」(『大事なものは見えにくい』所収)による)

〔注〕シンポジウム——研究発表会、討論会。

重鎮——立派な存在として皆から重んじられている人

物。

ニュアンス——ことばなどの微妙な意味合いや違い。

おざなり——いかげんに物事をする様子。

あしらつた——いいかげんに扱つた。

風格——態度や様子などにあらわれた品格。

玩具——おもちゃ。

腐葉土——落ち葉が腐つてできた土。園芸などに用いる。

〔問題1〕

モノのやりとりのあいだに差しはさまれた「時間」とあり

ますが、「時間」以外で、商品交換と贈与を区別しているもの
を、**文章1** から五字で書きなさい。

〔きまり〕

○題名は書きません。

○最初の行から書き始めます。

○各段落の最初の字は一字下げて書きます。

○行をかえるのは、段落をかえるときだけとします。

○、「や。や。」などもそれぞれ字数に数えます。これらの記号
が行の先頭に来るときには、前の行の最後の字と同じますに
書きます（ますの下に書いてもかまいません）。

○。「と」が続く場合には、同じますに書いてもかまいません。
この場合、「。」で一字と数えます。

○段落をかえたときの残りのますは、字数として数えます。

○最後の段落の残りのますは、字数として数えません。

〔問題2〕

① いろいろ思い当たるふしがあるとありますが、筆者はひ
そしうりに訪れた小学校を、どのよくなものとしてとらえて
いますか。「よいデザイン」という言葉を用いて説明しなさい。

〔問題3〕 今後、あなたがだれかに手作りのプレゼントをわたすこと
になつた場合、どのよくなことを心がけよつと思ひますか。
今のおあなたの考えを四百字以上四百四十字以内で書きなさい。
ただし、次の条件と下の「きまり」にしたがうこと。

条件

- ① **文章1**・**文章2**、それぞれの内容にふれること。
- ② 「①」の内容と、自分がプレゼントを作り、わたすうえで
心がけたいことを関連させて書くこと。
- ③ 適切に段落分けをして書くこと。だんらく

